

資 料

オオチョウバエによる尿ハエ症の1例

上村 清 荒川 良

富山医科薬科大学医学部病理学教室

(〒 930-01 富山市杉谷 2630)

(受領: 1985 年 7 月 20 日)

A case report on urinary myiasis due
to the moth fly, *Telmatoscopus*
albipunctatus

Kiyoshi KAMIMURA and Ryo ARAKAWA

Laboratory of Parasitology, Department of
Pathology, Faculty of Medicine, Toyama
Medical and Pharmaceutical University,
2630 Sugitani, Toyama 930-01, JapanKey words: myiasis, urinary myiasis, moth fly,
psychodid fly, *Telmatoscopus albi-*
punctatus.

チョウバエ科昆虫によるハエ症は泌尿生殖器、消化器、気道、眼瞼内より少数報告されている。著者らは今回富山市在住の 69 歳女子膀胱炎患者の泌尿生殖器系に寄生していたと思われる 1 虫体を尿中に検出し、オオチョウバエ *Telmatoscopus albipunctatus* の成熟幼虫と同定したので報告する。

症 例

患者: 浜○久○子, 69 歳女子, 富山市長江新町在住, 主婦。

初診: 1982 年 10 月 13 日。

主訴: 下腹部不快感。

既往歴: 59 歳時に胃ポリープ症のため胃切除。

現病歴: 40 歳代から膀胱炎に数回罹患していた。1982 年 7 月老人検診で尿の混濁を指摘され、某医受診。慢性膀胱炎と診断され治療を受けていたが、当時尿混濁以外に自覚症状はまったくなかった。10 月 4 日から血尿と右下腹部鈍痛が続くようになったため、富山医科薬科大学付属病院に通院し、同年 10 月 14 日より毎回自宅で採尿していた。10 月 28 日採尿カップ内の尿中に生きて動く 9 mm 大の黒褐色の虫体が発見され、泌尿器科から当教室に同定を依頼された。その後も採尿を続け、11

月 2 日陰洗浄を行ったが、他に虫体は見いだせなかった。また陰内に異常所見はみられなかった。

現症: 体格中等度。栄養良好。頸部、胸部、理学的に正常。腹部、平滑で軟。肝、脾、腎を触知しない。表在リンパ節も触知しない。

検査成績: 血液: 血液化学正常, 血清化学的検査 CRP (—), 尿: タンパク (±), 糖 (—), 沈渣: 赤血球 2 ~ 4 /GF, 白血球 20 ~ 30 /GF, 尿細菌培養: 陰性。

虫 体 所 見

本幼虫は検診時生きて尿中を活発に動いていたが、翌朝 29 日には死亡していた。虫体は図 1 に示すごとく、体長 9.0 mm, 体幅 0.8 mm で、汚灰褐色の体色に、頭部、胸・腹部背板、尾部呼吸管は暗褐色を呈す。

頭部は比較的小さく、触角は微小。口器は突出する。胸部、腹部は微細な小棘毛でおおわれ、側面に分岐剛毛を生ず。胸部環節と腹部第 1 環節はおのおの 2 小環節に、腹部第 2 ~ 7 環節はおのおの 3 小環節に分かれ、各小環節の背面に分岐剛毛を列生する帯状の背板を有す。尾端の呼吸管は円錐状で、呼吸管比 3.0, 先端に縁毛をなす 4 葉の肉状突起をそなえる。

これらの形態的特徴から、本種をオオチョウバエ *Telmatoscopus albipunctatus* Williston の成熟幼虫と同定した。

考 察

本例は泌尿生殖器に虫体が生息していることを直接確認したものではない。しかし、患者は自宅 1 階便所で毎回採尿を行っているさいに採尿カップ内に発見したものであり、床上に置かれた採尿カップに水中生活者の本幼虫があらかじめ侵入していたとも、採尿時に混入したとも考えられない。念のため、便所内や周辺を調べたが、本種幼虫は発見できなかった。

本種は、通常、幼虫が浄化槽などの汚水に生息し、有機物をとって生育し、成虫は 8, 9 月に多発し、便所に多く見つかる (Makiya, 1976 など)。

患者宅は新興住宅地内にあり、新築後 9 年目の 2 階建木造住宅で、東面は空地に、南面は用水路に接し、経タイル張りの 1 階和式水洗便所にも本種成虫はみられる。おそらくは陰部に偶然雌成虫が産卵し、泌尿生殖器で孵化生育したものが尿中に排出され、慢性膀胱炎で採尿していたために発見できたと推察される。また、虫体を排出した 24 日前から血尿と会陰部不快感、右下腹部鈍痛が続いたのが、虫体排出後軽減し、陰内に異常所見がみられなかったことから、本種寄生がこれら症状に関与した可能性がある。

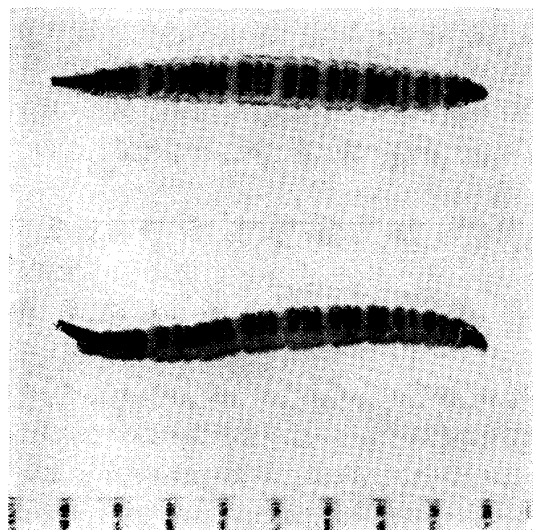


図1 尿より検出されたオオチョウバエ成熟幼虫（側面および背面：合成）

人体におけるハエ症は国内、国外ともに数多く報告されているが、チョウバエ科昆虫によるものは少ない。泌尿生殖器系では、Patton and Evans (1929) が男児泌尿器から *Psychoda* sp. (= *albipennis*) を、Johannsen (1934) が女性泌尿器から *P. sp. B.* (= *alternata*) を、Tokunaga (1953) が女児泌尿生殖器から *P. alternata* を報告しており、本症はチョウバエ科としては4例目にあたり、本種としては最初の症例である。ほかに、消化器系では、Okada (1927) が17歳女子の吐物より *P. bipunctata* (= *alternata*) を、Tokunaga (1953) が48歳女子の糞便中より本種を報告しており、呼吸器系では、徳本ら (1963) が43歳男子の喀痰から *P. alternata* を、眼では上村 (1967) が37歳男子の眼瞼内より *P. alternata* を報告している。

本資料の提供をいただいた富山医科薬科大学泌尿器科の片山 喬教授，中田瑛治助教授，梅田慶一助手に深謝する。

引用文献

- Johannsen, O. A. (1934): *Aquatic Diptera, Part 1: Nemocera, Exclusive of Chironomidae and Ceratopogonidae*, 71 pp., Cornell Univ., Agric. Exp. Stat., Mem. 164.
- 上村 清 (1967): ホシチョウバエ幼虫の眼寄生と思われる1症例について. 衛生動物, 18: 305-306.
- Makiya, K. (1976): Observations on the circadian activity and seasonal prevalence of *Telmatoscopus albipunctatus* Williston (Psychodidae: Diptera). *Jpn. J. Sanit. Zool.*, 27: 121-126.
- Okada, Jō K. (1927): Un cas nouveau de *Psychoda bipunctata* Curt. *Ann. Parasitol.*, 5: 105-106.
- Patton, W. S. and A. M. Evans (1929): *Insects, Ticks, Mites and Venomous Animals of Medical and Veterinary Importance, Part 1. Medical*, 786 pp., Croydon, Great Britain.
- 徳本 洋, 森本真平, 加藤周一, 松原藤継, 小林敏雄 (1963): 気管支拡張症にともなったチョウバエによる蠅幼虫症の1例. 衛生動物, 14: 216-219.
- Tokunaga, M. (1953): Moth-flies that cause myiasis in man in Japan. *Jpn. J. Sanit. Zool.*, 4: 101-107.

Summary

A mature larva of a psychodid fly was detected in fresh urine of a woman at the age of 69 who has been suffering from cystitis. The specimen was 9 mm long. The colour was grayish white in the body and dark brown in the head, dorsal plates and siphon. There were 3 dorsal plates on each of the abdominal terga second to seven. The specimen was identified as *Telmatoscopus albipunctatus* Williston from its morphological characteristics. This case is considered to be the first report on human urinary myiasis due to this species.